

私が暮らす南米パラグアイってどんな国？

¡Hola a todos! ¿Cómo están?

みなさん、こんにちは！

私はJICA海外協力隊としてパラグアイに派遣され、野菜栽培隊員として活動している会田安那です。

今回は、私が暮らしているパラグアイという国について紹介します。

「パラグアイ」という国名を聞いて、どこにあるか分かる方はどれくらいいるでしょうか。

実は私自身も、JICA海外協力隊として派遣されるまでは、パラグアイについて詳しく知りませんでした。

パラグアイは南アメリカ大陸のほぼ中央に位置する内陸国で、ブラジル、アルゼンチン、ボリビアの3か国に囲まれています。日本からは飛行機を2度乗り継ぎ、約30～50時間以上かけてようやくたどり着く、日本のほぼ裏側にある国です。

ちなみに私の場合は、日本を出発してからパラグアイに到着するまで約49時間かかりました。長い移動の末に初めて目にしたパラグアイの景色は、今でも鮮明に覚えています。



【写真1：パラグアイ到着直後、空港での同期との一枚】



【写真2：首都アスンシオンのモニュメント】

派遣前はパラグアイについてあまり知りませんでしたが、実際に暮らしてみると、日本とは異なる文化や習慣に日々驚かされるとともに、多くの魅力を発見しました。

まず驚いたのは気候です。

パラグアイは亜熱帯気候に属しているため年中暑いのかと思っていましたが、日本と同じように四季があります。ただし、日本とは季節が逆で、12月から2月頃が夏にあたります。クリスマスやお正月を半袖で過ごすのは、私にとってとても不思議な感覚でした。

夏には気温が40℃近くまで上がることもあり、外で活動しているだけで大量の汗をかきます。一方、冬には朝晩の気温が5℃前後まで下がる日もあります。

さらに、1日の寒暖差が15℃以上になることもあり、現地の人からは「パラグアイには1日の中に四季がある」と教えてもらいました。



【写真3：夏(12月)20時ごろの空】



【写真4：冬(7月)に教室でダウンを着る子供たち】

次に言語です。

パラグアイには、スペイン語とグアラニー語という2つの公用語があります。

特に地方では両方の言語を使う人が多く、年配の方の中にはグアラニー語を中心に生活している人もいます。また、都市部に比べて地方では、学校や市場、地域の集まりなどでスペイン語とグアラニー語が自然に混ざり合って使われています。

私も地域の集まりでは、会話の中でグアラニー語が飛び交い、内容が分からないことも少なくありません。それでも、温かく迎え入れてくれる地域の方々のおかげで、少しずつ地域に溶け込むことができました。自国の言語や文化を大切に受け継ぐ人々の姿からは、パラグアイの人々の誇りを感じます。



【写真5：任地ヘネラル・ディアス市のモニュメント】



【写真6：教会のイベントに参加した際日本について紹介】

さらに、私が感じるパラグアイの大きな魅力は、人々の温かさです。

地域を歩いていると気軽に声をかけてくれたり、家族の集まりや地域の行事、食事に誘ってくれたりすることがよくあります。家族や友人とのつながりをとても大切にしており、人と人との距離の近さを実感します。

活動先の学校や農家の方々にも日々支えられ、私自身も多くのことを学ばせてもらっています。



【写真7：友人と川の近くでピクニック】



【写真8：農家の方々とチパ作り】

日本ではあまり知られていないパラグアイですが、豊かな自然と温かい人々に囲まれた魅力あふれる国です。2年の活動期間、この国の魅力をさらに発見するとともに、私自身も多くのことを学びながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

次回は、「パラグアイで見つけた日本とのつながり」をテーマに、現地での暮らしについて紹介したいと思います。

¡Chao chao! 🖐️